

から一層注意して成るべく是等の危険を防ぐやうにせねばなりません。醫家の中にはこの頃の子供が病氣に感染し易いといふことを理由として子供を幼稚園に入れるのに反対する人がある程です。それですから幼稚園の事業に従事して居る人は吳も氣を付けてかういふ危害を防ぐやうに努めねばなりません。

以上で大體の批評を終りましたが是等の原則はいづれも今日に於ても保育上並びに教育上の眞理

保 育 入 門 (十三)

九、幼稚園教育の方法

第三、其の手段 (つらき)

五、實物教育

として受容することが出來ます。假令フレーベルの方法が神祕的形而上學的立脚地から出て今日の心理學生理學及び教育學の進歩と伴はぬにしましてもその原理原則は依然として生命を有して居ります。今日以後の學者並びに實際家はよろしくフレーベルの如き人類の恩人の立てた貴ぶべき原則を時代々々に應じて適當に應用して往きその効果の大に擧がるやうに努むる責任があると思ひます。

(兒童研究第十九卷第三、四號より)

倉 橋 惣 三

世に實物ほど貴重なる教育手段はない。實物はそれ自身としての目的なり意味なりを有するものであつて、必ずしも始めから特に教育の手段とし

て考案せられたものでないことはいふまでもないが、それが幼児と交渉を生ずる時に、そこに直に立派なる教育手段となるのである。而して此の實物教育を自然的と、社會的との二つに分つ。

(一) 自然的實物教育。すなはち自然物を以てする教育であつて、幼児をして、常に之れに交渉せしむるの機會を與へなければならぬ。其の交渉の仕方には、間接的と直接的との二種があつて、間接的といふは、見物、鑑賞の類で、離れて傍から動植物等を見るのである。直接的といふは、飼畜、培養玩弄の類で、動植物等に直接するのである。物の種類により、自ら其の交渉法にも差違がある譯であるが、實物教育として最も効果の多く又適切なものは直接的交渉である。即ち知識教授に於ける直観といふ意味よりも一層進んで、深く又廣い意味を有して居るのである。假令ば幼児は小鳥や草花を學ぶために實物に接するばかりでなくして、其の自發的にして、相互的にして、具體的に

して、情緒的なる教育全體を受くるために、小鳥や草花に親しみ交るのである。更に換言すれば其の小鳥と草花との中に、全生活を正しく、また最も有効に實現し得るのである。此の意味に於て撰擇せらるべき自然物の種類は、極めて自由なるものである。科學的に正確に、鑑賞的に珍奇なるものである必要は少しもない。普通にして平常なるもので可なるのみならず、寧ろその方が却つてよいのである。たゞ其の趣味の傾向に於て、幼児に適するものでなければならぬことは、いふまでもない。其の他何の制限もない。

(二) 社會的實物教育。彼の自然物に對して、之は主として人事的なるもの、即ち社會生活の實狀である。假令ば汽車、電車、軍隊教練の狀、學校教室の有様、商店、工場の類いづれも皆、幼児に適切な社會的實物教育として用ゐられる處のものである。而して、之等は自然物の如く趣味に於て豊富なるものでないから、おのづから知的興味が

主となるものであるが、之等に對する幼兒の興味は極めて活潑なるものである。而して、此の交渉の仕方は、必ず間接的に、觀覽者の態度に立つて他はないが、それも必ずしも單に享受的のものではないことは、談話の場合と相似て居つて、幼兒は其のまのあたり見る處の世界に、活潑なる内部的自發性を以て生活するのである。さればこそ、之等は、次の時に於て單に言語として語りあらはさるるのみならず、具體的に模倣となつて表顯せられるのである。而して、此の幼兒に交渉せしむべき、所謂社會的實物の撰擇は、自然物の如く自由でなく、教育的、内容的に幼兒に適當なる性質のものでなくてはならない。之れは、そのよからぬことを直に模倣するからといふのではなく、そのよからぬことの中に、幼兒の生活が營まるゝからである。そこに、好ましからぬ情緒的習慣が生ずると困るからである。

二

自然的實物教育にしても、社會的實物教育にしても、之れを教ゆるのが第一の目的でないから、必ずしも綿密詳細なるを要せず、また、一々之れを記憶せしむる必要もない。謂はゞ實物が其の獨特なる力を以て、幼兒の心を活かし、働かし、及び、感受させて呉れ、ばよいのである。若し之れを誤つて、徒に幼兒の觀念内容を豊富ならしめんとし、精密ならしめんとする如きことをのみ努むるならば、幼兒教育としての實物教育本來の目的を、超脱せるものと謂はざるを得ない。此の點は特に注意を要する。

三

之等の實物教育を充分に行ひ得るために、幼稚園は成るべく其の設備を豊かにしなければならぬ。動物の飼畜あるべく、多種にして撰擇せられる植物園、また畑地あるべく、以て、出來得る限りの實物教育を幼稚園内に於て、なし得たいのである。しかし、廣汎多様な自然を、小さい幼

幼稚園内に含攝することは難い。殊に社會的實物教育に至つては、到底之れを園内に於て期し難い。

すなはち、一方に於ては、幼稚園を能ふ限り實物教育の場所として用意すると共に、一方には之れを幼稚園外に求めなければならない。之れ、即ち、園外保育である。また園外遊歩ともいふ。素より幼兒といふ限度内に於て行ふことであつて、園外の距離範圍も亦限られたものであるが、幼兒としては、そこに廣き現實の世界に觸れ得るのである。但し、之れは必ずしも幼稚園がなさずとも其の機會は多いものであるが、如何にして之れを充分有効ならしめ得べきかは幼稚園教育の深く考究すべき問題である。

而して、實物教育を整理して充分有効ならしむる方法に、概念的整理と、發表的整理との二種がある。概念的整理とは、その實物より得たる處を、概念的知識に築き上ぐることである。發表的整理とは、之れを概念に化することなくして、そのま

まに、具體的に、發表することによつて、愈々具體的に、我がものとなり得ることである。其の發表は或は音楽となり、動作遊戯となり、手技、圖畫となり、また談話（幼兒の）となるが、いづれにしても、受けつゝ一度生活したことを、あらはしつゝ再び生活して、こゝに益々安定し、具着せる生活となるのである。幼稚園教育に於ける實物教育の整理の概念的整理によらずして、發表的整理によるべきものたることは、多く論を要しない。

六、實際生活

一

實際生活が教育の手段であることは、實物が教育手段であると同様にして、且つ一層切實なるものである。談話が與ふる假感世界の生活、實物が與ふる主動的實驗生活、之等にして教育價值の大なるものがありとすれば、實際生活が與ふる現實

世界の主動的被動的な生活は、教育價値の最大なるものでなければならぬ。茲に至つて、眞に自發的にして、眞に具體的にして、眞に相互的にして、眞に習慣的なる幼稚園教育の原則が、最よく實現せられ得るのである。

實際生活は實際の必要に基くものである。茲に眞乎の自發性がある。實際生活は實際の目的を持つものである。茲に眞乎の具體性がある。實際生活は幼稚園内の實際問題として、幼兒相互の關係を有するものである。自分の便利、他人の便利、之れが互に主となり従となり、又合一する。茲に眞乎の相互性がある。實際生活は日常の生活に反覆せられるものである。茲に眞乎の習慣性がある。机を列べる。友人のお辨當を配る。先生のお手傳をする。皆之れ立派なる教育手段である。

二

たゞ實際生活は、素より教育手段として考案せられて居るものでないから、之れを撰擇しなければ

ばならない。その撰擇の標準としては、幼兒が其のことにする意味を充分理解し得興味を有し得ることが最必要なる第一條件である。蓋し、幼兒に實際生活の一部を分擔せしむることは、實際生活そのもの、爲でなくして、幼兒のためである。若し幼兒が其の意味に理解と興味とを有し得ない様の場合には、幼兒は其の生活に使役せられることとなつて、全然幼兒教育の意味に反する。そのこと自身に直接の興味を有するといふことは、教育手段の如何なる場合に於ても必要のことであるが、實際生活は其の本來の性質が純實際的現實的に實用上の目的を有するものであるから、此點に一層綿密なる注意を要するのである。或は勤務的に用をさせられるとか、或は賞罰によつて他律的に促し行はせられるとかいふ類のことは、絶対に避くべきである。

* * * * *

* * * * *

以上述べて來た諸手段は、其の主なるものを擧げたに過ぎない。幼稚園は、その中に幼稚の最も自由なる多種なる生活を營ましむる處であつて、其の間から多種の教育手段を自由に發見し考案し得るのである。故に幼稚園教育の原則が前掲四ヶ條であることには變りなく、其の方法の基本が自

發遊戲であり、其の材料が遊具であることには變りなくして、而して、其の手段は無限に豊富に且つ自由なのである。すなはち手段はどこ迄も手段である。是れに固着し、是れに即し過ぎてはならぬ。要は教育にある。此の一事最も誤解があつてはならない。